

鹿児島市

ピアサポーターとともに マグマシティの未来を創る

鹿児島市では…

「にも包括」構築推進のため「精神保健福祉部会」において協議を重ねているほか、精神科病院・相談支援事業所・他関係機関等の連携を強化するとともに、ピアサポーターの活動基盤を整え、精神障害にも対応した地域における支援体制充実のため、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築事業」に取り組んでいます。

1 県、指定都市、中核市、特別区の基礎情報

鹿児島市



取組内容

【長期入院精神障害者の地域移行】

- 地域移行推進戦略会議（年2回）
- 地域移行推進会議（月1回）
- 地域移行促進会議（月1回）

【人材育成】

- 精神障害者ピアサポーター養成講座
- 地域移行支援スタッフとして活躍するピアサポーターの訓練
- ピアサポーター交流会（月1回）
- ピアサポーターフォローアップ研修会

【普及啓発】

- 市主催イベントや市政出前トーク等での市民との交流、体験談発表

【保健 医療 福祉関係者による協議の場】

- 障害者自立支援協議会精神保健福祉部会（年3回）

基本情報（都道府県等情報）

障害保健福祉圏域数（R●年●月時点）	—	か所		
市町村数（R6年5月時点）	1	市町村		
人口（R6年3月時点）	585,724	人		
精神科病院の数（R6年5月時点）	18	病院		
精神科病床数（R2年10月時点）	3,283	床		
入院精神障害者数 （R3年6月30日時点）	合計	2,925	人	
	3か月未満（％：構成割合）		567	人
			19.4	％
	3か月以上1年未満 （％：構成割合）		521	人
			17.8	％
	1年以上（％：構成割合）		1,837	人
		62.8	％	
退院率（R1年時点）	うち65歳未満	579	人	
	うち65歳以上	1,258	人	
	入院後3か月時点	52.7	％	
入院後6か月時点		72.3	％	
	入院後1年時点	81.8	％	
相談支援事業所数 （R6年6月時点）	基幹相談支援センター数	1	か所	
	一般相談支援事業所数	26	か所	
	特定相談支援事業所数	54	か所	
保健所数（R6年6月時点）	1	か所		
（自立支援）協議会の開催頻度（R6年度）	（自立支援）協議会の開催頻度	2	回/年	
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	有・無		
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況（R6年5月時点）	都道府県	有・無	か所	
	障害保健福祉圏域	有・無	/	
	市町村	有・無	1 / 1 か所/市町村数	

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

長期入院精神障害者の地域移行推進事業（R1～委託）
 ピアサポーターステップアップ事業（R2～委託） } 拡充・統合

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築事業（R5～委託）

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築事業

ピアサポーター
バンク事業

ピアサポーター
活用事業

ピアサポーター
ステップアップ事業

《目的》

精神科病院・相談支援事業所・他関係機関等の連携を強化するとともに、ピアサポーターの活動基盤を整え、精神障害にも対応した地域における支援体制の充実を図る。

●支援体制づくりの協議の場

一般相談支援事業所や医療機関による地域移行支援の進捗状況や解決困難ケースの共有・検討等を行う。

- ・地域移行推進戦略会議（年2回）
- ・地域移行推進会議（月1回）

3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯

● 「ピアサポーターバンク事業」 …ピアサポーターの養成・フォロー

ピアサポーターを養成する講座を実施し、地域移行を促進するとともに、ピアサポーターが本事業を通じて交流会や研修会を主体的に行えるように支援することで、ピアサポーターの障害の特性やニーズに合わせた活動ができるようにする。

● 「ピアサポーター活用事業」 …地域移行支援で共に活躍するピアサポーターの訓練

精神障害者ピアサポーターに対し、指定一般相談支援事業所において地域移行支援スタッフとしての訓練を行い、長期入院精神障害者の退院支援及び地域生活支援を実施することにより、鹿児島市の地域移行を推進する。

● 「ピアサポーターステップアップ事業」 …ピアサポーター及び相談支援事業所のスキルアップ

一般相談支援事業所が地域移行支援を実施する際、鹿児島市で養成したピアサポーターを活用し長期入院精神障害者の地域移行を促進するとともに、体験談発表等の様々な活動を行うことでピアサポーター自身のスキルアップを図る。

長期入院精神障害者の退院意欲喚起のための体験談発表や、各地域、団体の会合等で、地域住民や学校、企業等へ向けての体験談発表を行うことにより、精神障害についての普及啓発を図る。

ピアサポーターと地域移行支援をすることのできる相談支援事業所を増やすため、ピアサポーターを活用して支援を行いたいと検討している一般相談支援事業所に対して、ピアサポーターと活動するにあたり必要となるスキル習得への助言や技術的援助を行う。

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に資する取組の成果・効果

<昨年度までの成果・効果>

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (昨年度当初)	実績値 (昨年度末)	具体的な成果・効果
①ピアサポーター養成講座修了者数	30名	22名	令和元年度から開始し、計99名のピアサポーターを養成。修了生が主体となり、交流会や研修会の企画・運営が行われている。
②ピアサポーターによる退院意欲喚起 (体験談発表等)	6病院／6回	4病院／4回	ピアサポーター訓練生が協力病院の入院患者との交流や体験談発表を実施。計128名の方へピアサポーターの声を届けることができ、そこから地域移行支援申請に繋がったケースもあった。
③ピアサポーターによる普及啓発活動 (体験談発表等)	10回	153名／6回	精神保健福祉士や看護師、保健師を目指す大学生や地域の社会学級向けに体験談発表を実施。「精神の分野にマイナスなイメージがあったが、イメージが変わった」「医療者のみでなく、ピアサポーターも含めて、地域で暮らすことを支えていける環境がとても大切だと思った」等の感想があり、正しい知識の普及啓発に寄与した。
④地域移行支援決定者数〔延〕	43名	36名	10年以上の入院歴のある方が、ピアサポーターとの関わり・地域移行支援を利用し退院に繋がったケースもあった。

5 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた現時点における強みと課題

【特徴(強み)】

- 年度初めに、市内精神科病院・一般相談支援事業所向けに事業説明会を開催。事業説明のほか、医療機関・相談支援事業所の取組やピアサポーターの活動を共有し、にも包括構築推進のための理解・協働を呼び掛けている。
- 地域移行推進会議を毎月開催。地域移行支援の進捗状況等を共有・検討することで、地域移行への取組を継続できている。
- 本市で養成したピアサポーターが、一般相談支援事業所と共に活動し退院意欲喚起や地域移行支援を行っている。にも包括構築に資する協議の場に参加している。ピアサポーター養成講座・研修会・交流会の企画・運営・実施に関して、主体的に取り組み、大きな役割を果たしている。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
精神障害／メンタルヘルスに関する知識・理解が不十分	精神保健福祉部会にて「普及啓発」をテーマに、本部会構成委員それぞれの所属機関(医療・教育・障害福祉・ボランティア・行政等)が地域の中でできることに取り組むことで、各所属機関の持つ力の底上げになり、地域課題の解決に繋がっていくという考えのもと協議を重ねていく。	行政	市民や職員向けの研修、講座、イベント等の実施
		医療	地域との交流、市民向けの講座の実施
		福祉	当事者、家族、関係機関からの相談への助言及び連携
		その他関係機関・住民等	一般住民のメンタルヘルスに対する意識向上
ピアサポーターとともに活動できるノウハウをもった相談支援事業所が少ない	地域移行支援の実績があまりなく、ピアサポーターと協働した支援に難しさを抱いている一般相談支援事業所に対し、ピアサポーターとの活動実績が豊富でノウハウをもっている事業所からの助言や技術的援助、事業所同士で語り合える機会を設けることで、ピアサポーターと共に活動できる相談支援事業所を育成する。	行政	相談支援事業所同士が課題等を共有・検討できる場の提供(地域移行推進会議の開催)
		医療	地域移行支援を活用した退院支援の実施。ピアサポーターの介入が退院支援に効果的であうと理解し、病院間で成果を共有し合う
		福祉	一般相談支援事業所への意欲喚起と未経験事務所への支援
		その他関係機関・住民等	地域移行支援の周知

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (今年度末)	見込んでいる成果・効果
①ピアサポーターによる養成講座修了者数	22名	25名	本市で活躍できるピアサポーターの増加／一般就労
②ピアサポーターによる退院意欲喚起	4回	6回	長期入院者の減少／平均在院日数の減少
③ピアサポーターによる普及啓発活動	6回	10回	精神障害の正しい知識の普及啓発による共生社会の実現
④地域移行支援決定者数(延)	36名	36名	地域移行支援を利用した更なる対応促進

6 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための連携状況

【にも包括構築の体制】

精神保健福祉部会(協議の場)において地域課題について協議を重ねることで繋がりを深め、にも包括を構成する(本人、家族、医療...)それぞれの持つ役割や強みを理解しながら協働を進める。精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築事業において、精神科医療機関/一般相談支援事業所/地域活動支援センター/基幹相談支援センター/ピアサポーター/行政が連携・協働し、ピアサポーターの養成・フォロー/地域移行支援で活躍するピアサポーターの訓練/ピアサポーターのスキルアップ/普及啓発/ピアサポーターと活動できる相談支援事業所の育成を実施することで、にも包括の構築を推進する。

所管部署名	所管部署における主な業務	連携部署名	連携部署における主な業務
保健支援課(保健所)	<ul style="list-style-type: none"> 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築事業 精神保健福祉部会の運営 障害者手帳(精神)/精神通院自立支援医療/障害福祉サービス(精神)の手続 精神保健福祉に関する相談・訪問指導 普及啓発講座等の実施・自殺対策事業 	障害福祉課	<ul style="list-style-type: none"> 障害者自立支援協議会を設置 基幹相談支援センター委託運営 障害福祉サービス関連事業所等の指定等 障害者手帳(身体・療育)/更生医療/障害福祉サービス(身体・療育)関連の手続
		保健予防課 保健センター	地域における母子・成人・精神・高齢者の保健・福祉に関する相談・訪問指導、健康増進のためのイベントを実施。

各部門の連携状況		強み・課題等
保健	地区個別ケース支援(措置入院患者退院後支援/医療観察法処遇者への支援を含む)における関係機関と連携。	保健師が個別ケース支援を通して地域課題及びその解決策について考える機会がある。また、地区支援のみならず精神保健福祉関連事業課であるため、支援の中で見えた地域課題について、実施事業と関連づけて検討しやすい。
医療	退院促進のため、地域移行支援を行っている一般相談支援事業所・ピアサポーターと連携。退院に向け地域の支援者も含めたケース会議を開催。毎月の地域移行推進会議にて地域移行の進捗を共有し、事例検討等している。	個別ケースを通して、医療機関・障害福祉サービス事業所・行政間の連携がとりやすい。地域移行推進会議への参加医療機関が固定化してきているため、効果的な呼びかけ・協力依頼が必要。
福祉	事業委託相談支援事業所及び一般相談支援事業所が、毎月の地域移行推進会議にて地域移行支援の進捗を共有し、事例検討等している。また、毎月の地域移行促進会議にて、地域移行支援に関する困りごとや課題を共有・検討している。	個別ケースを通して、医療機関・障害福祉サービス事業所・行政間の連携がとりやすい。ピアサポーターと共に地域移行支援ができる一般相談支援事業所は、市内登録事業所のうち数か所のみであり、長期入院精神障害者の地域移行支援を担える事業所が不足している。
その他関係機関・住民等	協議の場に精神保健福祉ボランティアが参加している。医療機関に呼びかけ、スポーツ大会を実施したり、行政主催の普及啓発イベントへの協力等を行っている。	ボランティアは「支援者と患者(当事者)」という関係性ではなく、同じ地域に住む対等な関係での関わりができる。ボランティアの存在を広め、興味のある市民に対し養成講座を実施し、ボランティア活動ができる市民を増やす。

7 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための協議の場の実施状況

名称	協議の場の構成員	開催頻度	実施内容	特記事項等(課題・強み等)
障害者自立支援協議会精神保健福祉部会	保健・医療・福祉関係機関、行政、当事者代表、基幹相談支援センター、地域活動支援センター	3回/年	にも包括推進のための協議の場として、課題及び解決に向けた方向性、目標を検討	多機関が関わることで、各自でできる取組や目標を検討することができる。
地域移行推進戦略会議	市内精神科医療機関、一般相談支援事業所、地域活動支援センター、ピアサポーター、基幹相談支援センター、保健所	2回/年	にも包括の事業報告、鹿児島市の目標と戦略について確認	開催時期を6月と3月に実施することで、鹿児島市としての今後の目標の確認・共有、事業の振り返りを、多機関と共に行うことができる。
地域移行推進会議	市内精神科医療機関、一般相談支援事業所、地域活動支援センター、ピアサポーター、基幹相談支援センター、保健所	10回/年	退院支援候補者リストに基づく支援進捗状況の共有、事例検討等	他病院の退院支援候補者リストの情報共有することで、似た事例があった際に地域移行支援を行うヒントや参考となる。
地域移行促進会議	一般相談支援事業所、ピアサポーター、基幹相談支援センター、保健所	10回/年	ピアサポーターと共に地域移行支援を行うためのノウハウを学ぶ(悩みや課題の共有)	会次第を設けず、一般相談支援事業所同士でざっくばらんに話しあうことでつながりを深め、課題解決に向けて助け合うことができる。

【その他事項】 ※協議の場運営における課題や悩んでいる点、アドバイザーに相談したい事項など、自由に記載ください

協議の場や事業に参加している担当者だけでなく、担当者の各所属に対しても、地域移行や「にも包括」構築推進の必要性について理解を深めてもらうためにどのような仕掛け作りができるか。

8 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けたスケジュール（長期）

事業利用予定年数：令和7年度まで

長期目標	精神科平均在院日数の短縮及び1年以上の在院患者数が減少する。 精神障害者の社会復帰及び社会参加が促進され、充実・安定した地域生活を送ることができる。	
年度	実施内容	具体的な取組
R6年度 R7年度	支援体制づくりの協議の場 ピアサポーターバンク事業 ピアサポーター活用事業 ピアサポーターステップアップ事業	一般相談支援事業所や医療機関に事業説明を行う。また、地域移行支援の進捗状況や解決困難ケースの共有・検討を行う。 ピアサポーターの養成から交流会・研修会までを一体的に実施し、ピアサポーター自身が障害特性やニーズに合わせて活動できる場を提供する。 ピアサポーターの訓練を行い、医療機関において退院意欲喚起のための体験談発表や地域移行支援を行う。 ピアサポーターに活動の場を提供し、地域において普及啓発のための体験談発表や市民との交流、地域移行支援を行う。また、一般相談支援事業所に対して、ピアサポーターと活動するにあたり必要となるスキル習得のため技術的援助を行う。
R8年度	状況に応じて養成や訓練の実施について検討	

9 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けたスケジュール（今年度）

短期目標 (今年度)	地域移行推進会議における医療機関参加数の増加 地域移行支援の実績がある事業者数の増加及び地域移行支援決定者数の増加
スモール ステップ	事業説明会や推進会議等で、地域移行や「にも包括」の構築推進の必要性について説明し理解を深めてもらう。

時期(月)	実施内容	具体的な取組
R6年4月	事業説明会	精神科病院、一般相談支援事業所に対し、事業の活用を提案及び協力を依頼
6月と3月 (2回)	地域移行戦略会議	事業関係者間で、成果目標及び役割を共有。成果と課題の共有と事業評価
6月～	推進会議/促進会議	月1の定期的なカンファレンスで、具体的な退院支援方法の検討、事業の進捗状況等の報告
6月 ～翌3月	ピアサポーター養成講座・訓練生面接、ピアサポーターの活用／ピアサポーター交流会	養成講座受講者の中から希望者を面接し、地域移行支援で活躍するピアサポーターの訓練を行う(不採用者に対しても、ステップアップ事業の中で、活動の場を提供する)。養成講座修了者を対象に交流会を開催
10月 ～翌3月	障害者自立支援協議会精神保健福祉部会	地域課題について協議を重ねる場
3月	ピアサポーターフォローアップ研修会	養成講座修了者に対し、ピアサポートに関する研修を実施